

普及活動情勢報告（令和４年２月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

シシトウ産地のこれからについて！ ～南国市シシトウ４部会合同役員会～



合同役員会の様子

２月２日、ＪＡ高知県南国営農経済センターにて、ＪＡ主催の南国市シシトウ４部会合同役員会が開催され、生産者及び関係機関１６人が参加しました。

農業改良普及課は、県育成の非辛みシシトウの現地実証試験の状況や、県域シシトウ販売会議に向けた聞き取りなどを行いました。

生産者からは、非辛みシシトウに対し「今の時期も肩張りが少ない」「市場の評価はどうなっているか」などの声が聞かれ、特に販売に関する意見が多く挙げられました。

農業改良普及課は、今後も合同役員会の定期的な開催を支援し、南国市のシシトウ産地の維持拡大に向けて取り組んでいきます。

自身の経営の課題を探ろう！

～グリーンカレッジ（新規就農者組織）研修会の開催～



説明に聞き入る参加者

１月２７日、ＪＡ高知県香美地区ニラ部会グリーンカレッジ研修会がＪＡ土佐山田集出荷場にて開催され、生産者５名が参加しました。

ＪＡからは、簿記記帳の流れや申告書・決算書の見方などについて説明、農業改良普及課からは、経営計画の立て方や経営を見直すポイントについて助言しました。

参加者は経営するうえで、①課題（経営・栽培管理）の把握、②課題に対する改善策の検討、③これらを経営に関わる家族等と日頃から話し合うことの３点が大切なポイントであることを学びました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、新規就農者の経営安定に向けて支援します。

病害が発生しにくい環境をつくろう！～なす部会現地検討会～



現地ほ場で意見交換する参加者

１月２５日、ＪＡ高知県香美地区なす部会の現地検討会が開催され、生産者１０名が参加しました。

ＪＡから、販売情勢と２月の栽培管理について説明があり、農業改良普及課からは、春先から発生しやすい黒枯病・すすかび病の防除や篤農家のハウス内環境と天窓管理について、また農業担い手育成センターの視察報告をしました。

現地ほ場巡回中に生産者から「これまで天窓を一気に開けていた。今度からは少しずつ開けたい」という意見がありました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、ナスの生産安定に向けて支援します。

オクラの収量向上を目指そう！～栽培講習会の開催～



栽培のポイントを熱心に
聞く生産者

1月下旬から2月上旬にかけ、土長地区と香美地区において、オクラの栽培講習会が順次3回開催され、48名の生産者が参加しました。

農業改良普及課からは、ほ場準備や草勢管理、トンネル換気などの初期の栽培管理で特に重要となるポイントについて説明しました。

生産者からは「トンネル換気を工夫してみる」「現地検討会でほかのほ場も見たい」などの意見が聞かれ、生産者同士の意見交換も活発に行われていました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、個別巡回や現地検討会を通じてオクラの収量向上に向けて支援していきます。

天敵利用者倍増！ ～カンキツ I P M研究会現地研修会～



葉裏の天敵を確認する
生産者と指導員

1月23日、J A 高知県香美地区カンキツ I P M研究会の現地研修会が開催され、天敵利用に取り組む会員10人全員が参加しました。

農業改良普及課は、天敵カブリダニの生態と放飼する際の注意点について、J Aは製剤の種類と特徴を情報提供しました。その後、すでに天敵を導入している園地で放飼状況を確認しました。

参加者からは「カブリダニは乾燥に弱い。湿度を保つためにかん水は毎日1分でもやった方がいい」「夏場に防除しなくて済むようになったので楽」といった声が聞かれました。

天敵を導入する生産者数は去年の2倍に増えており、農業改良普及課は、天敵放飼技術が定着するよう、今後も関係機関と協力して支援していきます。

M e は S A W A C H I で D o してる！～第22回高知県農業担い手サミットin南国市～



S A W A C H I の活用事例
発表の様子

1月31日、南国市のザ・ミーニッツで第22回高知県農業担い手サミットが開催され、県内全域から84名の認定農業者及び関係機関が参加しました。

サミットのテーマは「I o P で楽しく、楽に、儲かる農業」で、管内から南国市のシトウ農家2名が I o P クラウド S A W A C H I の活用事例を発表しました。

農業改良普及課は、発表資料の作成を支援し、当日は共に登壇して事例紹介のサポートをしました。

質疑応答では「S A W A C H I の活用がもっと広がるにはどうしたら良いか」といった質問があり、参加者同士で活発な意見交換が行われました。

農業改良普及課は、今後も高知県農業の担い手が輝けるよう、全面的に支援していきます。

身近な事例を学び農福連携の知識を深める～農福連携研修会 i n なんこく～



5名の講師から説明

2月16日、南国市のザ・ミーニッツにおいて、南国市農福連携研究会主催の「農福連携研修会 i n なんこく」を開催し、生産者や関係機関を含む44名が参加しました。また、会場の様子をW e bで同時配信し、W e bでは24カ所から参加がありました。

農業改良普及課は、講師との講演内容についての事前打合せや当日のW e b配信を行いました。

研修会では、マッチング事例や障がい特性に合わせた作業の工夫事例が多数紹介され、農福連携を推進するうえで非常に参考になる内容となりました。

農業改良普及課は、今後も農業現場で障がい者が働くことのできる環境づくりに取り組んでいきます。